元気UP

じんけん 2025

兵庫県人権教育研究協議会

目次

座談会『阪神・淡路大震災から30年 高校生が考えるすべての人に 大切な「人権」と「いのち」』 2

夢を繋ぐ／各地区の先輩から 7

人権について考えよう・人権って何？ 12

「アンコンシャス・バイヤス」とは 13

お互いの心と体を大切にするために 14

新成人に薦めたい書籍 16

表紙絵／兵庫県立舞子高等学校２年生　柏木　萌花・田上　空也・丸山　伊涼

阪神・淡路大震災から30年

高校生が考える すべての人に大切な「人権」と「いのち」

阪神・淡路大震災から今年で30年が経ちました。皆さんが阪神・淡路大震災をどう思っておられのか、「人権」「いのち」をどう考えておられるのか、それをどうこれからつないでいったらいいのか、ご意見等を聞かせていただければと思います。まず、舞子高等高校はどのような学校ですか。

●Aさん／本年度からユネスコ・スクールに登録されていて、学校全体でいうとトルコの方と交流をしたり、環境問題やエネルギーに関する研究活動を部活で行ったりしています。他には、「高校生平和大使」として原爆の被災地を訪問、ノルウェーの本部の国連関係者との交流といったことに有志が参加しています。

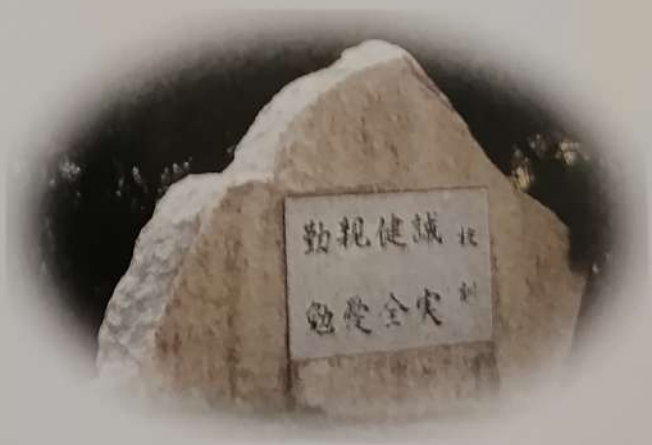
＊

●Bさん／普通科、普通科先進理工類型、環境防災科があって、私は環境防災科に在籍しています。毎学期に防災教育というのがあって、普通科、普通科先進理工類型と一緒に防災教育に取り組んでいます。防災教育を意識している学校です。

＊

●Dさん／昨年創立50周年を迎えました。全国で初めて設立された環境防災科も23年を迎えました。それに伴って制服が今年度から変わりました。生徒同士の交流も学科を越えて非常に活発で、行事も生徒会が中心となって取り組んでいます。

＊



●Eさん／舞子高校の校訓は「誠実・健全・親愛・勤勉」で、生徒一人一人が自ら考え行動し、社会とともに成長していく姿勢を大切にしています。生徒会活動は生徒の声を反映するために、SPTC（生徒・保護者・教員・地域の方々）会議を通して、校則や学校生活に関する意見が積極的に取り入れられ、生徒主体で学校をよりよくしていく取組が行われています。部活動も、運動部・文化部共に盛んで、特にウエイトリフティング部や天文気象部が活躍しています。

特に普通科でアピールすることはありますか。

●Eさん／普通科には先進理工類型があって、特に理系を学ぶ類型になっています。特色選抜入試で入学できるのですが、理工と医療に特化して学ぶことができます。

学びたいことが明確な人にはいい選択ができますね。環境防災科ではどうですか。

●Aさん／環境防災科では、時代と共に変わってきています。自然災害はもちろんですが、最近では放射性廃棄物の問題、自然災害を含めた地球温暖化への対策、再生可能エネルギーの問題、福島での原子力発電所の処理水の問題といったことに目を向けています。福島の方から直接話を伺ったり、自分たちができることを考えたりと、変わっていく環境に合わせた防災教育になっています。

変わってきた社会に適応した形の環境防災科に進化しているということですね。阪神・淡路大震災から30年経つのですが、皆さんは小中学校で阪神・淡路大震災について、どのようなことを学んでこられましたか。

●Fさん／中学校で、「親に当時のことを聞いてこよう」という課題がありました。親は当時神戸に住んでいるとは限らないと思いました。また、地域によって災害の差もあるので、地形のことも関係しているので知っておくことが重要だと思っていました。

舞子祭　2024年6月6、7日

●Cさん／小中学校で学ぶとなったら、当時の災害の状況の映像を見ることが多かったです。見ただけという感じでしたが、神戸で起こった出来事という印象が強かったです。もともと防災には興味がありました。地震とかも調べていて、災害はこれからも起こるので対策が必要だと思っていました。だから、阪神・淡路大震災が起こった1・17で災害について学びますが、取り上げる回数は少ないと思っていました。

＊

●Bさん／小中学校では、1・17や3・11の日に起こった当時の災害の状況や先生の体験談を聞いていました。阪神高速道路が倒壊して、バスが落ちる直前で止まったという映像は印象的ですが、そのバスに乗っていたという方がたまたま2つ前のバス停で降りていたという話を聞きました。その話を聞いた時、災害は他人事ではないと思いました。自分の身近にあって、いつ被災するか分からないと思います。幼い時に聞いた時は恐怖も感じました。

＊

●Aさん／3・11は4歳頃だったので、記憶に残っているところもあります。中学生の頃から、防災に興味がありました。中学校に防災ジュニアリーダーという組織がありました。その組織に参加して、地域の人たちや消防署の人たちと合同で避難訓練を行っていました。地域の人たちは消防

署員から救命処置の方法を学んで、地域の人は消防署員に防災倉庫の場所を教え、防災倉庫の中にあるグッズを一緒に確認して、お互いが教えてもらいながら、補い合いながらやっていました。公助に頼るだけではいけないということを学びました。「防災は協力」で成り立っていると思います。

皆さんは、この舞子高等学校に入学して、阪神・淡路大震災をどのように考えていますか。

●Cさん／私は、阪神・淡路大震災を神戸で起きた、ただただ悲しい出来事だと思っていました。「1・17震災メモリアル行事」に、たくさんの人が来てくださって、それを知った時にすごく心が温かくなりました。たくさんの人の命が失われているから悲しい出来事ではあるのですが、この阪神・淡路大震災を追悼することで、みんなの気持ちがひとつになっているのではと感じることもあります。30年を迎えようとしています。悲しい出来事ではあったけれども、悲しいだけで終わらせたくないと思っています。

＊

●Dさん／阪神・淡路大震災は、その当時に生きていた人は起こった出来事を活かしていかなければいけないと思うし、たとえ神戸を離れたとしても、各地でそれを活かしていけると思います。

＊

●Eさん／やはり、阪神・淡路大震災という悲惨な出来事が起こってしまったことは変えられません。変えられないからこそ、それを活かせるようにしなければいけないと思います。教訓として経験してない人に語り継ぐのが大事だと思うし、南海トラフ地震とかも起こると言われているからこそ、それに向けて対策をしていかなければいけないと思います。

今度は2024年の1月の能登の話です。皆さんは能登の地震をみて、どんなことを感じましたか。

●Aさん／私がボランティアをしたわけではないのですが、直接能登を訪問した友だちから話を聞きました。阪神・淡路大震災の時は避難所で長期間生活することになったので、関連死も多く起こりました。一方、能登では早くに住むところが手配されたとかテントの設営が済んだという話を聞いた時に、過去の災害から学んでいると思いました。過去の課題や問題については、もう起こさないようにするための取組が行われていて、今まで語り継いだものが無駄になっていないと思いました。ボランティアで能登に行った友だちは、「初めはなかなか話も進まなかったけれど、作業を一緒にして、いろいろな思いも語ってもらえるようになった」と言っていました。

能登の被災地のこととして聞きました。「生理用のナプキンを1人に2つ配った」という話でした。災害避難所にはいろいろと配られる物があります。時として、私は女性の視点も必要だと思うことがありました。

●Cさん／その日は、テレビをつけて家族とまったりしている時だったのです。私のスマートフォンが鳴り出して、一旦「自分たちの安全をまず確保しよう」と思って家族に伝え、安全を確保しました。その後にテレビを見てみたら、能登の方では自分たちの所よりも大きい揺れが来て、カメラがとらえた町の状況が一転していました。「地震が来た」という事柄は一緒なのに、なぜこんなにも違うのだろうと思ってしまいました。何も行動できない自分がすごく悲しかったというか、能登の方々はその瞬間にすごく生活が変わっているのに、自分たちは変わらずに生活しています。なんか辛

能登でのボランティア活動　2024年3月17、18日

いというか、申し訳なさみたいな気持ちになりました。能登の方々もお正月で家族と一緒に過ごしていたのに、自分たちだけこんなふうに過ごしていいのだろうか、という気持ちでいっぱいでした。

＊

●Dさん／私は能登半島地震の後、垂水の募金活動に参加させていただいたことがありました。高校生が活動をしているのを見て、たくさんの地域の方々が協力してくださいました。地域の方の温かみを感じましたし、日本だからこそ地震災害への募金をしてくださるのかなと思いました。

＊

●Fさん／いつも通りの年始で、祖母たちと一緒にいました。誰も予期しなかったことで、地震が起こらなかった神戸に自分がいて、映像が流れる中で能登にあのような状況があって、同じ日本の中でこれだけの差があることにすごく驚き、日常が非日常になる瞬間を見たような気がしました。

能登の震災被災地で、技能実習生の外国の方が避難所に行かれて、水と食料とかをもらえると思ってなかったから、ずっと我慢していたという話を聞きました。会社の社長さんが来てくれて、水や食料をもらえることを初めて知ったそうです。私たちの組織は「人権」「いのち」を考えているところですが、皆さんはどう思っていますか。

●Eさん／人権といのちは誰もが平等に尊重するべき、大切なものだと思います。お互いを理解して、いのちを大切にすることで安心して暮らせる社会が作られると思います。例えば、「コープこうべたすけタッチ」というのがあります。地域の人が助け合いながら生活を支え合うという仕組みですが、人権を尊重していのちを大切にする実践につながる場だと私は思っています。互いを思いやることが、より良い社会や生活の実現につながると思います。

＊

●Dさん／人権は全ての人がもつべきであって、本当に大切なものです。どのような人でも雑に扱ってはならないし、そこに優劣をつけることもあってはならないと思います。

＊

●Bさん／自分が他人の人権を侵害したとしても、自分が侵害されたとしても、人権といのちはつながっていて、尊いものだと思います。誰かが誰かの人権を侵害する状況が起こったら、ネガティブになってしまい、自殺してしまうかもしれない。だから、この人権というのは、自分だけ大事にするのではなく、他の人や周りの人の人権も尊重して行動したり、発言したりしていかないといけないと思います。

防災も人権もいのちも含めて、私たちが幸せな社会を築くためには一体何をしなければいけないと思いますか。「1・17震災 メモリアル行事」を通していろいろ考えて、次どう行動するのか考えることはありますか。

1.17震災 メモリアル行事の様子

●Fさん／当たり前にあるものだと思っているので、当たり前ではないという啓発活動がいるのかな、と思います。誰かが行動を起こして、「でも、当たり前にあるものじゃないよ」ということを知らせなければならないかなと思います。

＊

●Aさん／やはり、防災とか「いのち」を守ることは、まず自分の住んでいる街について知ることが大切です。当然、自分の街のリスクや危険な箇所を知ることで、災害時に「いのち」を守れるのはもちろんですし、予想することで自分の街や人

に目を向けることができます。そうすると自分の街に愛着がわくと思います。生活の質が上がる、自分の街に誇りを持てるようになるといった人権的な面でもプラスになるのではないでしょうか。

最後に皆さんの夢を聞かせてください

- 価値観が違うと全然考え方が違うと思うので、いろいろな考えの人と交流することで自分の考えを深め、研究とかできたらいいなと思っています。
- 私は、困っている人を助けられる人になりたくて、手話を学んでいます。外国の人とも積極的に話せるようにもしていきたいと思います。
- 個人的に手話講座に通っています。手話講座を受けた中で、聴覚障がいのある方が「手話ができる若者が少ない」とおっしゃっているのを聞いた時にやろうと思いました。聴覚障がいのある方に安心を与えられるような手話通訳士をめざし、資格を取るために頑張っています。
- 私は辛い経験とか人と比べてしまうことがあります。しかし、困難な生活を送って来られた方は絶対にいると思うので、そういう人たちの苦しみを理解して助けたいなと思っています。
- 自助、共助、公助がありますが、人を助けられるような大きなことではなく、まずは自分にとって些細なことでも1個ずつ自分でできるようになればと思っています。
- 私も困っている人を助けられる人になりたいと思っています。災害の時の話ですが、「避難所にペットを飼っている人は入れない」という記事を読みました。それも人権を大切にしていないことにつながると思うので、ペットも入れる避難所とかをつくるといったことができるような人になりたいです。

やりたいことをどうやればできるか、周りを巻き込んで協力してもらいながら、すてきな大人になってください。ご協力、ありがとうございました。

座談会を終えて

震災の経験や教訓を次世代に継承し発信することを、舞子高校の皆さんが行動化されている姿を見せていただきました。また、語られるそれぞれの夢には「いのち」と「人権」がベースにあり、人のために、社会のためにできることをする、という思いがあふれていました。「いのち」や「人権」を取り立てて言うのではなく、日々の言動にさりげなく表現したり行動したりすることのほうが必要なのではないかと、高校生から学んだような気がしました。

阪神・淡路大震災の被災状況
【内閣府防災情報のページより】